

## 刺激的な日々、「自分に向き合った」留学

た いくつする暇がないほど い そがしく わ くわくしたいいちね ん

人文コミュニケーション学科4年 松下由佳



台湾で過ごした1年間はとても貴重で、これからの生き方に良くも悪くも影響を与えてくれるような刺激的な日々でした。

昨年2月から留学した静宜大学は、台湾で唯一の協定校です。北部が亜熱帯気候、南部が熱帯気候で年間を通じて暖かいと思われがちな台湾ですが、意外に冬は寒く、気温は最低5~6度まで下がります。空港に降り立った瞬間、マフラーをおいてきたことを後悔しました。



【起司蛋餅】

▽太らずして帰国できない台湾

“美食の台湾“、というイメージがあります。某タピオカミルクティーや小籠包のチェーン店のオープンなどで、“おいしい！”という構図が日本出来上がっているのではないのでしょうか。

現地は、まさにその通りで、太らずにして帰

ることはできません。早朝は、朝ごはん屋さんが、夜は夜市が開き、至る所で誘惑してきます。



【地瓜球】

お気に入りには、チーズ入り卵焼きをもちもちの皮で巻いた朝の起し餅（チーダンビン）、夜市で売っているさつまいもの風味の揚げスイーツ、地瓜球（ディーグワチョウ）とでした。驚くほど油を使っている料理が多く、食生活に気を遣うことが一番大変でした。

#### ▽夜型の大学生

寮生活では、文化の差を肌で感じました。多くの学生は夜型で、深夜にカップラーメンやお菓子を食べる“夜食”という文化があり、部屋が良い香で包まれ、お腹が空いて眠れないことも度々ありました。

学習机には、友人のメッセージの書かれた付箋がたくさん貼られていて、文通みたいでとても素敵だなと思いました。

はじめて自分の部屋に入った時に、机の上にルームメイトからの「歓迎」の付箋が貼ってあり、とても感激したことを覚えています。

土日の外出では、「行ってくるね！」の付箋をお互いの机に貼り合いました。

教えてもらった単語をメモしたり、日本語を教えたりと、付箋コミュニケーションでルームメイトと、とても仲良くなれました。

#### ▽貴重だった習熟度別クラス

授業は、午前中が語学、午後は、講義を自由に履修するという形式でした。交換留学生は大学によって中国語の授業を受けられる時間数が異なります。茨大からの学生は毎日2時間です。

習熟度別に分けられ、1週間で、自分のレベルに適合しているか、教授との

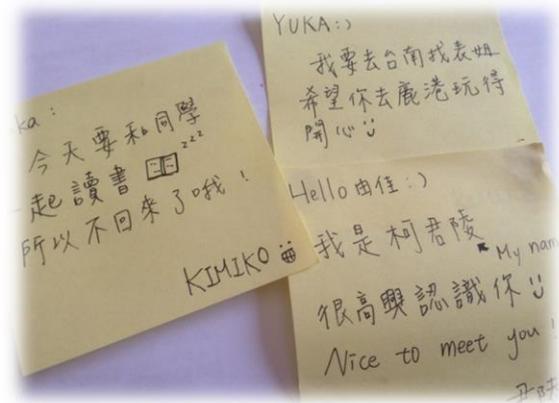
#### 【中国語クラス】



相性などを判断します。

所属した約4か月間学んだクラスはパナマ、イギリス、アメリカ、ベトナム、ブラジル、韓国などの出身者で構成された、とても貴重な

#### 【実際に貰った付箋】



クラスでした。

当初は、会話についていけず、先生にあてられるまで喋れない日々が続きました。

ところが、ある日を境に自然と中国語が出てくるようになり、2 か月後には中国語を話すことが楽しいと思えてくるようになりました。

それを機に、積極的に発言できるようになり、日常生活でも、習った文法・単語を使えるようになりました。

#### ▽意義深かった台湾語の履修

午後の授業は、日本語学科があるため、多くの邦人交換留学生は日本語学科関連の授業を履修していました。一番面白いと感じたのは、台湾語の授業でした。日本語があまり喋れない先生で、ほぼ中国語での授業だったので、とても意義深かったです。

#### 【台湾語の授業】



台湾語は、現地の学生にとっても難しいようです。日本の統治時代に入ってきたと思われる日本語と似ている単語もあれば、韓国語とも発音が似ていて、言語ってこんなに面白いものなのか、と言葉を学ぶことに対する新鮮な気持ちを思い出すことができました。

#### ▽留学が将来を考える契機に

留学で得たものは中国語能力だけではありません。自分と向き合う機会や時間が多く、自分自身の改善点や将来について考えるきっかけになりました。

留学前と今とでは、自分では考え方が大きく変わりつつあります。人生は一度だけ、留学を思いっきり楽しめるのも大学生（今）のうちだと思います。

貴重な機会を頂き、大学と両親に感謝しています。この経験を将来に活かせるようにまた努力をしていきたいです。ありがとうございました。 （終）